茨城県陶芸美術館 企画展

いばらき工芸大全Ⅱ
金工の巻

再発見 常陸国（ひたちのくに） 黄金郷（エル・ドラード）

プレス・リリース

平成 28 年 1 月 2 日（土）－ 3 月 6 日（日）

初代・北川北仙「牡鹿置物」

大正 10 年（1921）個人蔵

茨城県陶芸美術館

IBARAKI CERAMIC ART MUSEUM

〒 309-1611 茨城県笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL 0296 － 70 － 0011 ／ FAX 0296 － 70 － 0012

http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/

１　展覧会名

いばらき工芸大全Ⅱ　金工の巻

キャッチコピー：再発見　常陸国（ひたちのくに）　黄金郷（エル・ドラード）

２　開催趣旨

Ａ：一言でいうと（98 字）

まとまって紹介される機会の少ない茨城の金工品について，鏡や馬具など古墳等からの出土品にはじまり、寺社に伝わる遺宝、水戸金工の刀装具、そして明治以降の作家の作品等約 160 点を展示し，その魅力を紹介する。

Ｂ：もう少し丁寧にいうと（228 字）

いばらき工芸の魅力を陶芸にとどまらず紹介する展覧会の第 2 弾。鏡や馬具など古墳等からの出土品にはじまり、寺社に伝わる遺宝、一橋徳川家伝来品、そして明治時代以降の作家の作品等約 160 点を紹介。中でも江戸時代半ばに興隆した水戸金工と呼ばれる刀装具の技は、廃刀令により需要を失った明治以降も、海野勝珉（うんの　しょうみん）（1844-1915）らの活躍により近代の金工作品の制作に継承された。本展により，まとまって紹介される機会の少ない茨城の金工品の魅力が見直される機会としたい。

Ｃ：詳細にいうと（617 字）

茨城県陶芸美術館では、陶芸にとどまらず工芸全般に視野を拡げて、茨城ゆかりの工芸品の魅力を紹介する試みとして、平成 25 年度にガラスをテーマとした展覧会を開催した。今回はこのシリーズの第 2 弾として「いばらき工芸大全Ⅱ　金工の巻」を開催する。

本展では鏡や馬具など古墳等からの出土品にはじまり、寺社に伝わる遺宝、一橋徳川家伝来品、そして明治時代以降の作家の作品等さまざまな金工作品を紹介する。中でも江戸時代半ばに興隆した水戸金工と呼ばれる刀装具の技は、廃刀令により需要を失った明治以降も、海野勝珉（うんの　しょうみん）（1844-1915）らの活躍により近代の金工作品の制作に継承されたことが注目される。勝珉は各種の博覧会等に出品して受賞を重ね，明治期の代表的な金工作家となる一方で、岡倉天心（1863-1913）にその技量を認められ、東京美術学校（現在の東京藝術大学）の草創期から教鞭をとり、金工教育の面でも大きな功績を残した。その息子、海野清（うんの　きよし）（1884-1956）も同校で教え、昭和 30 年（1955）には重要無形文化財「彫金」保持者（人間国宝）に認定された。

この他にも帝展に入選を重ね、茨城工芸会の創立にも参加した介川芳秀（すけがわ　ほうしゅう）（1898-1975）、戦後の日展で活躍した飯田美郎（いいだ　よしろう）（1921- ）など、現在に至るまで何人もの金工作家が活躍している。

本展では、まとまって紹介される機会の少ない茨城の金工作品や、時代を超えて受け継がれた技の魅力を約 160 点により紹介する。

３　展示構成

出品総数　約 160 点

第Ⅰ章　古墳・遺跡からの出土品と祈りの造形

第Ⅱ章　江戸時代の一橋徳川家伝来品と水戸金工

第Ⅲ章　幕末・明治から現代に至る作家たち

４　主催等

主　　催：茨城県陶芸美術館

助　　成：芸術文化振興基金

５　会期

平成 28 年 1 月 2 日（土）～ 3 月 6 日（日）　56 日間

６　開館時間

午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入場は午後 4 時 30 分まで）

7　休館日
月曜日（ただし，1 月 11 日［月・祝］は開館，翌 12 日［火］は休館）

8　会場
茨城県陶芸美術館 地下 1 階企画展示室

9　観覧料
一般 720（570）円，高大生 510（410）円，小中生 260（210）円
※ （　）内は 20 名以上の団体料金
※ 冬季休業期間をのぞく土曜日は高校生以下無料
※ 満 70 歳以上の方及び身体障害者手帳，療育手帳をご持参の方及び付き添いの方（ただし 1 人につき 1 人まで）は無料

10　関連行事
（1）講演会「東京美術学校における海野家の活躍－勝珉・美盛（二代）・清」
平成 28 年 2 月 6 日（土）13:30 ～ 15:00
場所　当館 1 階多目的ホール（聴講無料）
講師　黒川廣子氏（東京藝術大学大学美術館准教授）
定員　120 名（先着順）

（2）ワークショップ「錫の器を作ろう」
日時　2月20日（土）10:30～15:00(10:00受付開始)
講師　石黒美男氏(本展出品作家)
定員　高校生以上20名(1月20日(水)午前9時より電話とファックスによる先着申込)
参加費　材料費の一部として1,500円，及び企画展チケットが必要です。

(3) ギャラリートーク　※企画展チケットが必要です。
日時　1月23日（土），2月27日(土)各13:30～

11　連絡先
茨城県陶芸美術館　〒 309-1611 茨城県笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）
TEL 0296-70-0011 ／ FAX 0296-70-0012
展覧会担当　学 芸 課　主任学芸員　今瀬　佐和（いませ　さわ）
副担当　学 芸 課　学芸員　名村　実和子（なむら　みわこ）
学芸課長　山口　和子（やまぐち　かずこ）
広報担当　企画管理課　首席学芸主事　中島　淳　（なかじま　あつし）
E-Mail　kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

12　当館ホームページ　http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/

13　次回企画展のご案内
「石黒宗麿のすべて」平成 28 年 4 月 16 日（土）～ 6 月 19 日（日）

プレスリリース用写真データ

広報担当の E-Mail アドレスまで連絡いただければ，すぐにデータをお送りいたします。
※表紙の作品　初代・北川北仙「牡鹿置物」大正 10 年(1921)個人蔵 も含みます。
なお，写真を掲載する際には，下記の作品キャプションを必ず併記してください。
広報担当：中島　E-Mail kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

「磬」南北朝～室町時代
南圓寺蔵

萩谷勝平「龍図鐔」
江戸時代後期　個人蔵

海野勝珉「還城楽図額」
明治26年(1893)　東京国立博物館蔵
Image:TNMImage Archives

海野清「彩金三ノ鼓並雲鶴紋打敷
昭和4年(1929)　東京国立近代美術館蔵

飯田美郎「金波銀波の壺」
昭和55年(1980)
茨城県近代美術館蔵

松田正己「アリスの道標・森の筐舟」
平成2年(1990)　茨城県近代美術館蔵